

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

# 三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

## ■コミュニティだより

VOL. 99 (年4回発行)

■発行日 令和3年3月31日  
 ■発行 三春まちづくり協会  
 ■編集 三春まちづくり協会広報部会  
 三春町大字貝山字泉沢100-1(旧若駒寮)  
 TEL/FAX (62) 3988

### 「三春花の丘」公園計画書

#### ◎目的

三春町全町の更なる活性化に向け、先ず中心市街地の活性化を図る。  
 その手始めの一つが、「三春花の丘」公園開設構想。それは、町民が町と一体となり、取り組む事業とする。旧市街地の北町、大町、荒町、北向町で囲まれる、通称「紫雲寺散策路」を中心に立木を整理し、散策路をさらに歩きやすく整備する。立木の整備も、現在の杉やケヤキ、雑木などの大木は伐採を基本とし、伐採後は桜、桃、花桃や、たむらまつなみ、等の低木を植樹し、子供たちが楽しく安全に遊べ、加えて小学生たちの自然観察の場にも供し町民をはじめとして、訪れる人々の心の安らぎの場とする。

#### ◎計画地域

三春町北町、大町、荒町、北向町で囲まれる地域。  
 計画対象面積約2ヘクタール(民有地、1.49ヘクタール、町有地、0.34ヘクタール、他)

#### ◎開設準備期間3年計画の内訳

・一年目 二〇一九(平成三十一年)五月～二〇二〇年三月  
 事業内容―

全体設計、伐採、植栽の計画作成、作業路整備、伐採の実施、管理体制に検討、東京舞鶴会へ協力要請、組織の法人化

・二年目 二〇二〇年四月～二〇二二年三月  
 事業内容―散策路整備、植樹

・三年目 二〇二二年四月～二〇二三年三月  
 事業内容―園路整備、植樹、設備等設置、地域と連携した管理体制の構築

#### ◎開設費用の内訳案

・県、県中地区地域創生総合支援事業【サポート事業】補助金申請  
 ・三春町への補助金依頼  
 ・一般、有志からの寄付募集  
 ・自己調達資金

### コンセプト 三春山 ふれあい公園

#### ※三つのふれあい

◎ヒト(人)とのふれあい  
 ・老若男女、すべての人が楽しめる場。  
 ・散策することが楽しく、子供は走り回れる。景観を楽しみ  
 潤いある時―

◎コト(事)とのふれあい  
 ・人が集いにぎわいを得られる場。  
 ・山の中に平地を設けて様々な活動を支える。体験、学習、交流の時―

◎ソト(外)とのふれあい  
 ・自然との触れ合いを持てる場。  
 ・花鳥風月、四季の移ろいを愉しめる。生物多様性を支える時―

#### ※花木散策ゾーン

緩やかにカーブする歩道が景色に変化を、高低差が緑ポリュームを与えてくれます。梅、桃、桜と春の美しい風景を作り、三春町の新たな観光スポットとします。

※夕日の広場  
 昼下がりは幼い子供を遊ばせる時間。

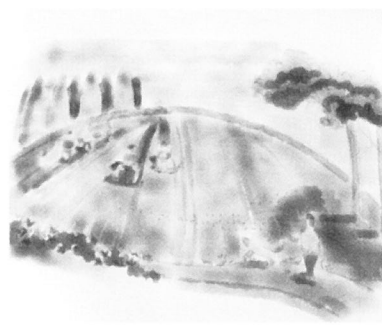
午後の日差しの中で爽やかな風薫る。自然を感じながら過ごせる広場。



ソリすべりの丘、子供たちの遊び場だけでなく、脚力の向上に散歩やアスリートも利用します。



ソリすべりの丘、冬はソリ遊びの人気スポット。散歩の犬も駆け回ります。



### 「三春花の丘」勉強会

生涯学習部会

服部 昇

十二月八日「花の丘」勉強会を二十余名で開催されました。

「三春わが街」昨年六月号紙面で、光善寺住職井上氏へのインタビューの様子が掲載しておりますが、今回は改めて井上、内藤両氏による勉強会で熱が入りました。



新開設置となる選理由は三春町のほぼ中央地にあたる紫雲寺山近辺で町外の方にも気楽に足の運べる利便性の良い土地となりました。春は新緑や花、夏には清水に舞うホタルの群生地、秋は紅葉狩りや自然豊かな野生の木実など、秋空にパノラマ星座や夕焼けの絶景地。冬はソリ滑りなど子供の夢が得られ、町民の健康作りの場として

夢や希望が次から次へとよみがえる計画です。



只、意見や質問で、情報発信、安全面(手すり等)、維持管理面、運営資金等の課題クリアが多くあり、実行委員会はじっくり検討して町民一体となり誰でもが楽しめる夢多い、「花の丘」にしたいと力説しておりました。コロナ禍ではありますが、明るいニュースに希望が膨らむ一時でした。



### テーマ「賑わえるわが街を願って」

お話・橋本 捨五郎氏

著書・「三春馬車鉄道」

「隠れ切支丹大名」「北からの蒙古襲来」「愛姫桜」秘められた恋の物語」等



普段当たり前前だと思つて見過ごしてしまいがちな「三春の良さ」について語り合ひましょう。

例えば三春ゆかりの人物や記念碑、貴重な建物の保存、すでに失われてしまった建物の図面の活用、町内の様々な桜それぞれの物語、数多くある神社や寺院の知られざる話、三春盆踊りについてなど：

町の歴史を再確認して観光資源を発掘していけば、三春の良さを生かした観光コースがきっと出来るものと思ひます。

### ◎一部

三春出身者、三春関係者、私が思う何名かの話をしてみたいと思ひます。

### 深間内 基

弘化三年（一八六四）三春藩士、深間内基時敬の長男として、三春に生まれ久蔵と名づけられたが、のちに父の一字をとって、基とあらためる。

明治元年、会津藩が九月に降伏しその二か月後の十一月、二十二歳の時に慶応義塾に入學した。戊辰戦争に巻き込まれなかったこととはいえ、片田舎の青年たち、東京に勉学に行くと、経済、情勢も、経済負担も大変だったと思ふ。

当然戦争が終わったばかりで、日本の国も三春藩も、親も子も先行きどうなるか見極めようとしたのかもしれない。

慶応義塾は、福沢諭吉が安政五年、大分、中津藩江戸屋敷で開いた、蘭学塾が起源とされ、深間内は慶応義塾を知って上京したのか、東京に行つて入つたのかわかりません。その後、板垣退助の高知立志学舎に英文教

員として招かれた。**浪岡 具雄**

雑誌「電気之友」に関係した経験があり進歩的なジャーナリストでしたが、大正十一年三月にオーム社の主幹に就任します。

大阪阿倍野区の「北島中央公園」にある北島頭家の墓は、記念碑的な存在です。

享保年間（一七二〇ころ）に造立されたが、墓所を囲む玉垣の前面にある標石「北島頭家卿墓」は、浪岡具雄が寄進したものです。

### 壁谷 可六

明治政府の官士として「福島県士族 壁谷」が複数確認できる。中でも内務省の「壁谷可六」の活躍が際立っている。

彼は、伊藤博文のもとで元老院・枢密院の官史として活躍し、「帝国憲法義解」など多くの著作も残した。明治四年七月、福島県・若松県・磐前県が合併して福島県になった。

壁谷可六が磐前縣士族とされたのは、生地・三春が磐前縣に属していたためである。**加藤木 重教**

加藤木重教の歌碑が三春町北野神社境内

に、父、直親の顕彰碑があり、三春大神宮境内にありませぬ。

慶応義塾に入学、卒業後工学寮へ入り、工部省電信技術官へ任命される。電話研究のため渡米し、帰国、後三吉電機（今の東芝）に入社。

明治二十四年、日本初の電気雑誌「電気之友」を創刊した。

### 「もしもし」の誕生

もしもしは「申す申す」が変化してできた言葉だが、当初は、男は「おいおい」女は「もしもし」だったらしい。

考案したのは、電話を日本で設置する際に研修ということで、明治三十二年にアメリカに渡つた、加藤木重教だといわれている。その電信機にまつわるエピソードがある。

ある日のこと、榎本武揚のもとに電友協会長であった加藤木某が珍品を手に入れたからとそれを持参した「古物商から手に入れたのですが、昔の電話機だそうです」「これは「これ」と榎本は絶句した。それは紛れもなく懐かしい電信機だったからだ。

日本に持ち帰つた電信機を開洋丸の艦将室に置いていたが江差で艦と共に水底に沈んでしまいました。ところ

が、その電信機が漁師の網にかかり引き上げられた。そして、古物商などの手を経て加藤木の手に入ったようだ。榎本は、その思いがけぬ再会に思わず目をうるませたという。

戦前までの三春小学校は、成績優秀の人に、秋田賞、加藤木賞があつたという。

受賞した人数は三名と思うが、調べてみると二名しかいなかったらしい。

### ◎二部

### 三春町の観光

残念ながら、奈良や、京都のような人を呼ぶ神社や仏閣がない。全国に知られている「三春の滝桜」はありますが、三春町内には子孫木など一万本の桜があり、町中が桜の名所になっています。

その中で樹齢百年を超える桜が、七十本あるといわれています。これは滝桜だけを目的に、また観桜期だけという一ヶ所且つ一時的な賑わいであり、「ぜひ街なかにも立ち寄りてほしい」という地域の思いとは裏腹に、滝桜以外のところは素通りされてしまつていく現状がある。

また、桜は重要な観光資源であるものの、生き物であることから、その観光時期は自然に左右されることが多く、将来、樹木自体に何事があるかどうかも判らない。

然に左右されることが多く、将来、樹木自体に何事があるかどうかも判らない。

城下町たる三春の街なかには歴史的な文化が多く残されており、これを生かせば、桜のシーズンだけでなく、通年で三春の魅力を発信することが出来る。

「観光魅力等のアピール」。三春の特産品のレシビなどの紹介。

郡山市をはじめとする広域連携による事業や近隣市町との連携ができればいいのではないかと、三春駒や三春張子人形などの製作・販売などは「高柴デコ屋敷」が有名であるが、行政区で言えば郡山市なのである。

郡山市と連携すれば、さらに三春の良さを再確認できる資源も数多くある。広域で連携することによって、観光資源が多様化し、より地域の魅力を高めるといふ効果も期待できると思われる。

町民自身にとつて「ここに住んでよかつた」と思える街、定住人口の増加に繋がる。

（佐藤久夫）



### 編集後記

三春町の景勝地で最も有名なものが、「三春滝桜」です。昨年は拝観中止になってしまいましたが、今年も心配です。

▼町内には子孫木など一万本の桜があり、町中が桜の名所になっています。

その中でも私は自宅から歩いて行ける福聚寺の桜が大好きです。

▼境内に二本あるベニシダレザクラ（樹齢四百年とされる）のやや赤みの濃い桃色にも似た紅の花が、境内いっぱい咲き誇る美しい光景は、ただただ溜息をついて見とれてしまひ、この世のものか極楽浄土のものかと疑つてしまふほどです。

▼一度見た人は、この自然の作つた雅美の一幕にきつと幸せを感じる事でしょう。さらに町内には三春大神宮や田村大元神社をはじめ多くの神社があり、城下町三春の歴史と共に歩んできた杜ばかりで、周辺の桜も見事です。

▼全国からくる観光客の人々に滝桜以外にも、町内には見どころがたくさんあることを知っていただければ幸いです。

（佐藤久夫）

コミュニティだより  
「三春わが街」第九十九号  
発行日 令和三年三月三十一日  
発行 三春まちづくり協会  
編集 三春まちづくり協会  
広報部 会  
三春町立真実学舎（〇〇一）  
（六一）三九八八